

**令和元年度
第1回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：令和元年6月25日(火)

場 所：藤島ふれあいセンター多目的室

第1回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 令和元年6月25日(火) 16:00～17:15
- 会 場 藤島ふれあいセンター多目的室
- 出席委員（五十音順） 9名
井上佳奈子、上野隆一、大沼恒司、高橋和夫、
高橋麻耶、高山千代子、田中壽一、富樫達喜、成澤 剛
- 欠席委員 6名 菊池健司、齋藤真如、澁谷徹、菅原きよ、野宮奨、丸山良子
- オブザーバー 県立庄内農業高等学校校長 青柳晴雄
- 市側出席職員
〈藤島庁舎〉 支所長 武田壮一、市民福祉課課長 伊原千佳子、
産業建設課課長兼エコタウン室長 成田譲、
農業委員会参事兼事務局長 齋藤智博、農業委員会主幹 佐藤友志
総務企画課課長 井上克浩、総務企画課課長補佐 叶野仁、
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優、総務企画課総務企画専
門員 叶野進
〈本所〉 企画部地域振興課地域振興専門員 飯野剛
- 次 第
- 1 開 会（総務企画課長）
 - 2 委嘱状交付
 - 3 あいさつ（武田支所長）
 - 4 会長、副会長の選出について
会 長 上野 隆一
副会長 富樫 達喜
 - 5 説 明・協 議
(1) 鶴岡市地域振興懇談会設置要綱について 資料1
(2) 藤島地域振興計画（前期計画）について 資料2
(3) 令和元年度藤島地域主要事業について 資料3
(4) その他
・鶴岡市の移住施策について 地域振興課：飯野剛 地域振興専門員
・庄農うどん大作戦！
 - 6 閉 会

【会議概要】

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 あいさつ
- 4 会長、副会長の選出について
会 長 上野 隆一
副会長 富樫 達喜
- 5 説 明・協 議
- 6 閉 会

3. あいさつ（武田支所長）

みなさんこんにちは。支所長の武田と申します。今日はお忙しい中、地域振興懇談会にご出席頂きまして本当にありがとうございます。先週18日夜10時20分、山形県沖地震という事で皆様方大変心配されたと思います。被害状況も現段階では、温海地域そして由良、三瀬といった海岸部を中心に屋根瓦落下と倒壊した家屋が現在470棟ぐらい把握をしている所です。それ以外の被害調査も、今各町内会長さんを通じて調査をしておりますので、もうすぐ全容、被害の総量が明らかになるのではないかと考えております。18日の発生以来、翌日から他市の応援なども頂きながら復旧に取り組んでおります。大きな地震がありました熊本市からは災害のエキスパートの職員2名応援頂いておりますし、大阪の平方市でも地震があったわけですが、そちらからも4名駆け付けて頂きました。南陽市、こちらは確か大雨の被害でしたけれども災害を経験した職員が駆け付けて頂いております。また、今日からは被災した家屋の罹災証明書発行のための調査を十班体制で回っておりますけれども、これには鶴岡市と酒田市を除く山形県内の11の市から2名ずつ22名、応援頂きながら調査をしていきます。また東北各地からも盛岡市、宮古市、仙台市、福島市の白河市からも応援頂いてそういった全国の応援を頂きながら今復興に取り組んでいる状況です。被害の中心が温海地域になりますので明日からは藤島庁舎から3名ずつ、温海庁舎の方に応援で駆け付けながら全国の進んだ取り組みなどを少し学びながら、災害対応の力を付けていきたいと思っております。その中で今日の新聞、報道等には今回の災害、大変痛ましい災害でありますけれども、その中であって比較的避難等はスムーズに実施された。これは町内会を始めとした地縁組織がしっかりしている、それが大きな要因であったのではないかという報道がございました。やはり地域の方々の力というのは地域振興を図る上で非常に大きな所ではないかと思っております。一方、藤島の動きを申し上げますと今週土曜日から、庄農うどんが商品化、地域内の6つの飲食店で提供される、8月までの期間限定でありますけれども、そういった流れになっております。これも出羽商工会の上野会長の非常に強いリーダーシップで一気に商品化が進んだという事でございます。他はもう少し前、年末年始にはHisu花歴史公園のイルミネーション

が大変大きな評価を頂きました。これもイルミネーションを飾るにあたっては地域の方々からワークショップで色々なアドバイス・ご意見を頂いてこの地域のアイディアで大きく花開いたのかなと思っております。また最近のニュースでは、藤島農産物元気食楽部が立ち上がって行政だけではなくて、農協あるいは農業者も一緒になって取り組み合うという、そういう話題もあったかと思えます。この地域振興を進める上で行政だけではなくて地域の方々、市民の方々、企業の方々、みんなで一緒に取り組むというのが基本ではないかなと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。皆様方におかれましては今日から2年間、委員としてご尽力頂く事になるわけですけれどもぜひ、藤島の地域の知恵を結集して地域振興を進めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。以上です。

4. 上野隆一 会長あいさつ

只今、皆さんからご承認頂きまして会長を本日から2年間務めることになりました上野と申します。この懇談会、一昨年に市長が代わりまして、この藤島地域の位置づけが非常に変わってきたのかなと思えます。先程もまちづくり未来事業が、この懇談会でも当初からなんとか藤島で最高金額を獲得しようというような変な燃え方をしまして、変な燃え方をした割に実際にそのとおりになり、他の地域よりは予算がついたようです。それを地域の活性化、特に今回は先程支所長からもお話ありましたような公園の整備事業だとか、Hisu 花の整備、それから文化記念館の方と。藤島地域の中心部でもありますのでその活性化に取り組み、それなりの成果が上がったのかなと思っております。この藤島地域というのは昔、だいたい私が子供の頃は1万5千人くらいいたんですよ。昭和30年から40年前後でしょうかね。ところがどんどん減ってきてまして、多分今年の初めぐらいに1万人を切ったと、いう風な事を聞いております。

(○武田壮一支所長 5月末で1万5人です。今月はおそらく切ると思えます。)

人口は3分の2ぐらいには昔に比べれば減っておりますけれども、人口が減って高齢化が進むわけです。こういう地域というのは非常にこのさびれて寂しい、悲しい、要は寂しい地域になりつつあるような一般的に思いますが、先程支所長のお話にもありましたように状況的には下降傾向にありますけれども、所々で活力を再生させる事業が増えてきてまして、これも支所長がおっしゃるように役所だけでは出来ない、もちろん民間の人間だけでも出来ない、ですので役所と民間それから庄農うどんについては学校の方も混ざってきてまして庄内農高も実は、まあ私長らく評議委員をやっておりますけれども、かなり大変だと思うんですよ。今現在官公庁の前で失礼ですけれども。大変な所であって。なんとかこの活性化を果たしていかなければいけないという事で、私も評議委員の方の端くれといたしまして、常々考えてきてそこで出てきたのが庄農うどん。幻の庄農うどんと言われるものをなんとか現実の庄農うどんに変えていければいいなと、これは地域の活性化また庄農の活性化にもなるんじゃないかなと思ってございまして。なんとか今年まだイベント事業に意見を出してはいないと思っておりますけれども、なんとか実現にこぎつけるためにも1つの活力剤になれ

ばという風に思います。なんだかんだこの懇談会で色々お話された事って言うのは少しずつやっぱり実現に向かう事が多いようです。ですから単なる空論で「こんな所で話したってなにもならないんだよなあ」という事でもない私は思いました。皆さんから積極的な発言を頂きたいという風に思いますのでよろしくをお願いします。

5. 説明・協議

(1) 鶴岡市地域振興懇談会設置要綱について

－ 資料1により説明 － 総務企画課課長補佐 叶野仁

(2) 藤島地域振興計画（前期計画）について

－ 資料2により説明 － 総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優

(3) 令和元年度藤島地域主要事業について

－ 資料3により説明 － ①総務企画課課長 井上克浩
②市民福祉課課長 伊原千佳子
③産業建設課課長兼エコタウン室長 成田譲
－ 別紙により説明 － ④農業委員会参事兼事務局長 齋藤智博

○上野隆一 会長 以上で説明が終わった所で予定されていた時間が来てしまいましたけれども青柳校長、庄内農高の最近の状況については庄農との連携、庄農のあり方とか高校再編でも庄内農高は俎上にもものっている、その辺も踏まえて状況の説明をお願いします。

○青柳晴雄 庄内農業高等学校校長 学校の方ですが、すでに県で方向性という事で皆さんご存知のように田川地区の高校再編という事で方向性は今年3月で出されました。本校に限って言えば子供達が減り将来的に数が減ってくれば、当然全体が減ってくるわけでありますので本校の生徒も減ってくるのでキャンパス制という事は、止むなしという方向ですが、現在2クラスで食品関係の食品科学科、それから食料生産科という農業関係の2つの学科で進めております。私の来た年が53名の入学者、次の年が65名、今年なんとか多くの入学生を望んでいたのですが50名、大変少なかったという事でございます。全体の数が少なかったという事と私立高校でも頑張っている学校があるし、だからそういった所でなかなか苦戦はしている。1つの方向性として、農業高校でしかできないようなものという事で今一生懸命頑張っている所です。特に食品科学科に女子生徒が大変多くなってきており、例年1年生が入学してくると環境が変わって色々、対人関係であったりあるいは休みがちの子が多くなったりするのですが、今年の1年生に限ってはほとんど休んでいない。中学校の時にはなかなか学校に来られなかった生徒が中にはいるのですがほとんど休んでいない。我々は3年前から入学者を増やそうという事で頑張ってきたのですが、別の意味で本校の学習内容が中学校にだいぶ知れ渡ってきて、意欲的に食品関係を勉強したいと入ってくる

生徒、特に女子生徒が増えてきています。ある意味、目的意識がありますので大変学習にも意欲的です。今年の1年生にはまだそういう事（不登校）がないのでこれからも心配はしていますが、我々が頑張っって今の1年生のような生徒から多く入って頂くようにし、なおかつ数を増やすように今の中学校の方に「庄農通信」という学校通信、「ホームページ」も見ると分かりますが数年前とは違うような形でどんどん学校の情報を流している所です。ある意味1つのものさしではなくて本校では色々と学習の方法があるという事で先生方にはいろんなものさしを持って評価し、あるいは色んな教え方を頑張っってくれという話の中で、例えばこの「庄農うどん大作戦」も、以前は学習の中でしか庄農うどんを作っってなかつたのですが、昨年かから部活動でもうどんを作る、こういう形になったということです。学校では、なかなか変えられない所だっただけですが、上野会長さんか、実習だけでなく地域の方々と一緒に取り組むという事が非常に大きな勉強ではないかと。

現在よく言われるのが斜めの関係という事で生徒と教師とか、親と子供ではなくて隣の家の人であつたり、地域の方々であつたり、そういう方と話し合っって一緒に活動する事が非常に大きな勉強だと。社会人になるにあつての大人になる勉強だと言われている。そういう事で取り組んでいるという事で教員の方ではなんとか2クラス維持するために来年度に向けてまた志望者を増やすように志願者を増やすように頑張っっている所です。ぜひご協力頂ければと思います。こちらの方はですね、PRになると思っますしまた他の事に関しても色々と取り組んで色んな学びの形を考えていきたくと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思っます。

○A委員 食品科学の方と食料生産の割合は何%くらい、1クラスの人数、同じくらいですか？

○青柳晴雄 庄内農業高等学校学校長 同じです。40人、40人です。ほぼ同じくらいでちょっと食品の方が少ないのですが、以前はどうしても庄農という男の子が多いイメージがあつたのですけれども、今年の1年生に限っっていうとちょっと女子も増えてきて、その女子の子達か食品科学科の中で意欲的だという感じですか。

○上野隆一 会長 市からは今年の施策、後は庄内農高の現状についてお話を頂きました。もう5分10分位ならいいかなと思っますので、皆さんかからこれだけはちょっと聞っておきたい、これは主張しておきたいというのがあれば。これだけ説明があつた中ですけれどもどなたか発言を頂きたいと思っますけれども。

○A委員 以前もお話したのですが、明らかに人口減少と高齢化という事で、例えば渡前小学校はもう先が見えている状況の中、何かする事はないのか。自然の流れだとこのままなくなるので委員として何かするべきなのか、私も分からないのですけれども。地域の獅子踊り、海浜学校、畑の先生、柿の栽培とか特色あることを地域ぐるみでやっっている小学校で、去年、

慶応の教授が講演に来てこの地域のすごい所、子供達に庄内の良いところ、鶴岡・渡前にいることをすごく誇りに思っているという事を5・6年生が対象で講演に来て頂きました。今年、校長先生が代わったのですけれども来て頂くという事で子供達がそういう話を聞かされて地域の事を多分思っていると思う。

小学校がどうなるかという事は、また別の話かもしれませんが、例えばなんですけれども、(渡前地域に)アパートみたいなものがあると鶴岡へのアクセスも悪くない。完全に家を建てるとなるとすごく勇気がいる。(児童数の減少に)歯止めを(かけたい)あともう少しで一学年が10人切れるので。そこを少し引き延ばすではないが、その意味があるのかどうか分からないけど、何かそういう事をした方がいいのかどうかいつも考えております。

○上野隆一 会長 課題が多くってその方策が少ないというのが実態なんですよね。誰でもそう思っていると思うけど。その事は少しずつ方策を作っていく。やっぱり行政にこれをお願いしたい、あれをお願いしたいと言ったって流れでお金もかかって出来ないの自分達でこういう風にしたいという提案をしてそれに対して行政がどれだけ乗ってくれるかと。こういう発想というか物の考え方を作っていかないと、とにかくみんなお願いしますお願いしますスタイルだとほとんど実現性がない、自主的な発案を大事にしていきたいと。今回Bさん初めて来られてどうですか？

○B委員 企画そのものは素晴らしいです。素晴らしいけども会長の言う通りなかなか実現となるとちょっと。Aさんから言われて初めて知った訳ではないけれども空き家結構あるのでは？うちの東堀越(町内会)に鶴岡とか浜松とか福島の方から移住しています、正式に移住、空き家を利用して。普通考えられないですが。山形とか藤島には何の魅力があるのか、分からないけれどもそれが現実です。渡前にも空き家、使える空き家があると思うので、そういうのを行政かなにか、個人の物なのでそう簡単には充てには出来ないけれども。(空き家を)利用すればある程度格安で(提供)すれば(移住者などが)来る可能性はゼロではないと思います。東堀越に3軒も入っているのです。

○A委員 東栄地区最近増えてますね、子供、ちっちゃい子が。

○上野隆一 会長 その他で今度は移住政策というものを話してもらいます。一番の課題は大きさからいうと人口問題だと思います、減らさないで増やすというのは難しいとは思いますがけれども、今回は1回目、2回目はいつごろですか？懇談会、だいたい目処で。

○叶野仁 総務企画課課長補佐 10月の下旬です。

○上野隆一 会長 10月頃には今回いろんな施策を行ったので10月の段階ではそんなに事務局とかの説明時間をあまり長くしないで。我々、懇談会の委員になって何も発言しな

いで帰るのは、「何しに行ったのだ」とならないように2回目では皆さんから最低1回は発言頂きたいと思いますので、事務局の方もそのつもりで時間配分、説明の方を準備しておいて下さい。協議、その他の所に移ります。

(4) その他

・鶴岡市の移住政策について

地域振興課：飯野剛 地域振興専門員

○上野隆一 会長 移住の問題ですが、あまりにも大きいので、皆さんからも質問事項がいっぱい出てきて時間もないのでだめですけども飯野さんはこれからの懇親会も一緒にいるんですか？懇親会で色々討議をしていくというか、懇談していきましょう。実は懇親会の席上で決まった事っていうのが今まで結構あるんです。懇親会も単なる酒飲み場だけではなく本音を話し合う場で、その本音を話し合っただけが政策に反映されていくという事例も結構ありましたので、この後も懇談会の続きであると思ってもらえればと思います。ちょうど時間ですので第1回の藤島地域振興懇談会の協議について終わりたいと思います。どうもご苦労様でした。ありがとうございました。

○武田壮一 支所長 先程、A委員からご発言ありましたけれども地域から出さないためにも住む場所の確保とか、そういった意見というのは去年も頂戴して検討した経過があります。ただ先程事務局でも説明した通り人口減少対策というのが全市共通の課題ですので地域振興課の方でこういった取り組みをしている訳ですけども、なかなか藤島地域の取り組みとして予算化なりませんでしたが、唯一この19番定住支援住環境等整備事業というのが小学校区単位で色々宅地、住宅地になりそうな情報だとか、新たな取り組みができる情報がないかという話し合いをしましょうという事業です。8万円しかついていませんが、そうやって色々話し合いをして情報を集めて次の動きに繋がられないかなという動きはやろうとしていますのでご意見を頂戴していきたいなと思いますし、先程次回は10月とかの話になりましたけれども、実はもう10月になると来年度の予算要求始まってしまいますから出来ればもう少し早めに開催をさせて頂いて、会長との予定調整もあると思いますがちょっと早めに開催させて頂いて、皆さんの意見を聞きながら来年度の作戦を練りたいと思いますのでその点ご了承ください。

6. 閉 会 (井上克浩 総務企画課長)

1回目の藤島地域振興懇談会、ご説明が主になってしまいましたが、次回からよろしくお願ひ致します。補足で説明しますけれども名簿の有識者の下から2番目、菊池健司さんという名前がごございます。彼は東洋大学社会学部の学生 OB で東京出身の方で鶴岡にIターンしています。(株)東北イートップさんの方でお世話になっておりました公募委員に応募頂いたという事でありまして。それから今、A委員から出た、非常に渡前の頭の痛い所ではありますがうちの目の前に「天瑞」という酒蔵があって、今廃業して屋根は崩れるし色々な事が起

きていてなんとかしたいなという風に思っていますが、あの屋敷なので名前を残すのであれば「天瑞ニュータウン」にならないかなと勝手に名前つけていますけれども、今、加藤鉦一議員さんが水面下で動いており、どうなるか分かりませんがそんなことも考えながら、なんとか賑やかな地域にしていきたいと思っております。それでは次回10月ではなくて9月頃になると思いますけれども再度ご案内させていただきますのでよろしくお願いしたいと思います。これから懇親会ですので第1回目の懇談会を只今を持ちまして終了します、どうもありがとうございました。